

むっちりドスケベ
にゃんにゃんリフレ



「いらっしゃいませ」



「皆様、本日は
心ゆくまで
お楽しみ下さいね」

「私達が皆様を心身共に
リフレッシュして
あげますからね」

「それにしても
沢山いるねー
よーし、頑張るぞー」

「まずは皆様の緊張を
ほぐしていきましょようね
恥ずかしがらないで
さあ……こちらへ♥」





「男っていくつになっても
おっぱいが好きなのね♥
ふわふわ柔らかかくて
気持ち良いでしょ♥」

「さあ、他の皆様も
どうぞこちらへ♥
私…もつと皆と
にゃん♥にゃん♥
したいんです…♥」





ビクッ

ビクッ



はあ

はあ

はあ

あゝ

あゝ

あゝ

「あん♥
そこは優しく
触ってね…♥」

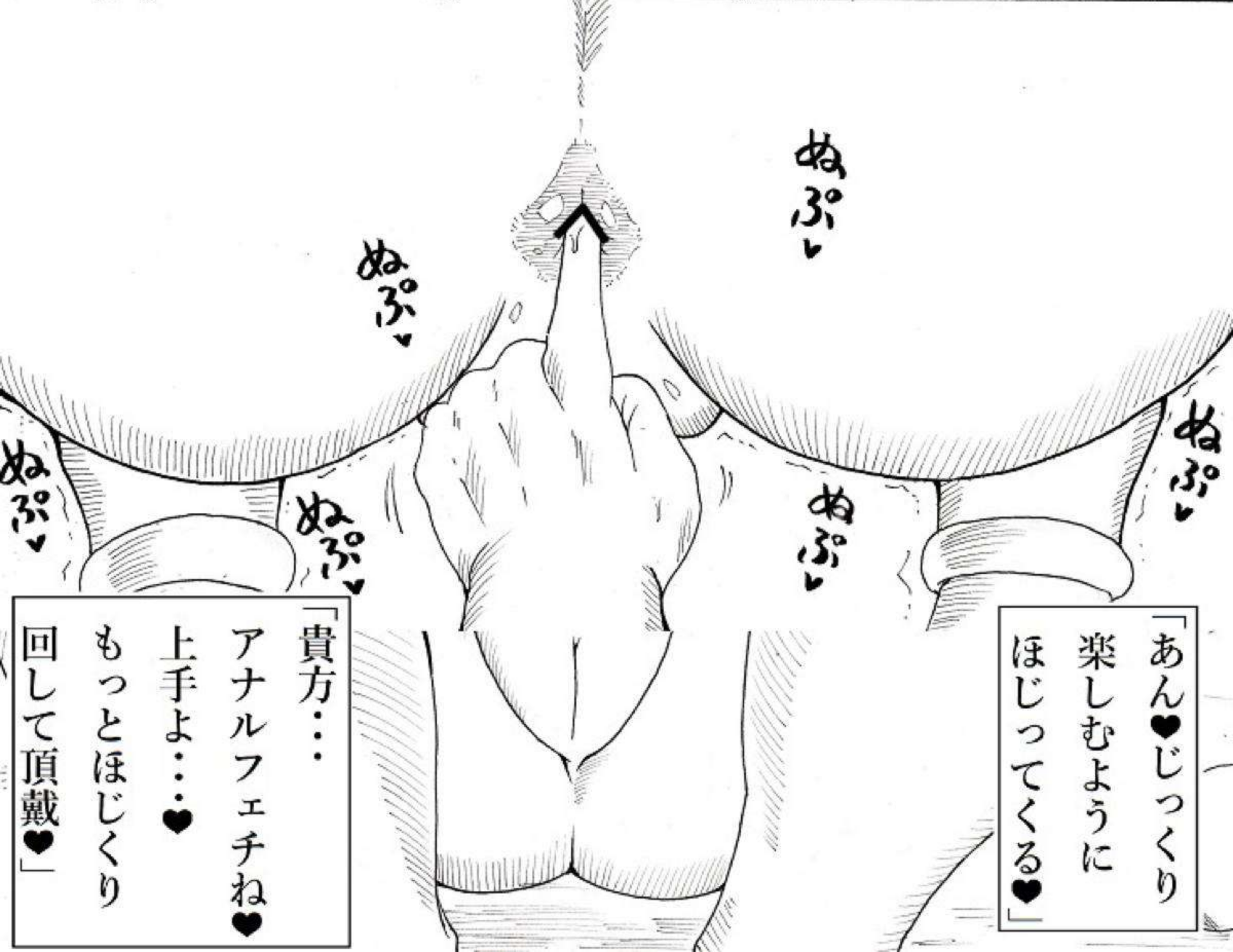
「鼻息当たって
くすぐったいわ♥
凄く近い…
ねえ、変な匂い
しない…?」

レキッ



「えっ？お尻？
勿論触って
いいけど……♥」

「お尻の穴に
指……入ってる♥」



「あん♥じっくり
楽しむように
ほじってくる♥」

「貴方……
アナルフェチね♥
上手よ……♥
もっとほじくり
回して頂戴♥」

「緊張しますよね
でも、大丈夫です
私は猫ですから
どうぞ、遠慮しないで
下さいね：：♥」





ピクッ

ピクッ

「あん♥
乳首：♥
気持ち良い♥
感じちやう♥」

「噛み噛み
しちやうの？
優しくしてね」

んキッ

カリカリ

カリカリ

ポロポロ

ポロポロ



ヒクッ

ヒクッ

「やん♥
匂い嗅いじや
だめです…♥」

「恥ずかしい
ですから…♥」

ハッ

スーッ

アッ

アッ

スーッ

ハッ

「ほらほら〜♥
そんな所でモジモジ
してないで皆早く
こっち来て〜♥」

「私といっぱい
じゃれ合おうよ♥」



ビクッ

ビクッ

「来るなり私のおっぱいに
そんなおつきくしたものを
擦りつけてきて……♥」

「皆、とっっても
熱いのね……♥」





ピクッ

ドンッ

フンッ

つんっ

はっ♡♡

「お豆さんはとっても
デリケートだからあ
優しくつつんつん
するんだよ：：♡」

「もう：：♡
開いちゃやん♡
皆結構大胆：：♡」

「皆でそんなもの手に持って
何をするのかと思えば……
猫じゃらしはそうやって
使うものだったかしら……？」

「あんっ♥もう……
エッチなんだから♥」

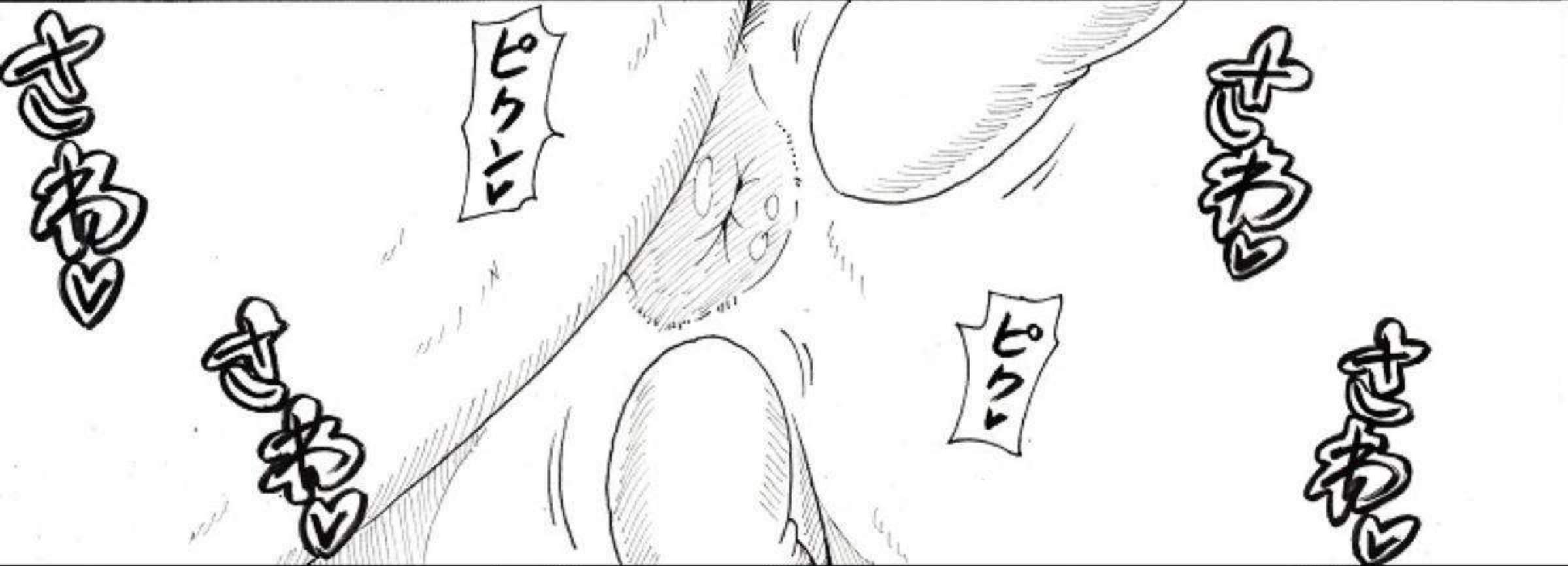


「あん♥あははは
そんな所ばかり
触らないの♥」

トキッ

トキッ

「あっ♥ははっ
もうやだ……♥」



「あっ……だめ……♥
身体、感じてきちやう……♥」

フん♥
フん♥

さわ♥

さわ♥

ピクッ

「あつ……♥そんな……♥やん♥
こんなの耐えられません♥
メス猫の気持ち良い所を
一斉に攻めてくるなんて
……♥あつ……♥はん……♥」

ドキ

ドキ

「あつ♥ひつ……♥
メス猫クリちゃん……
おつきくなつちやいます♥」



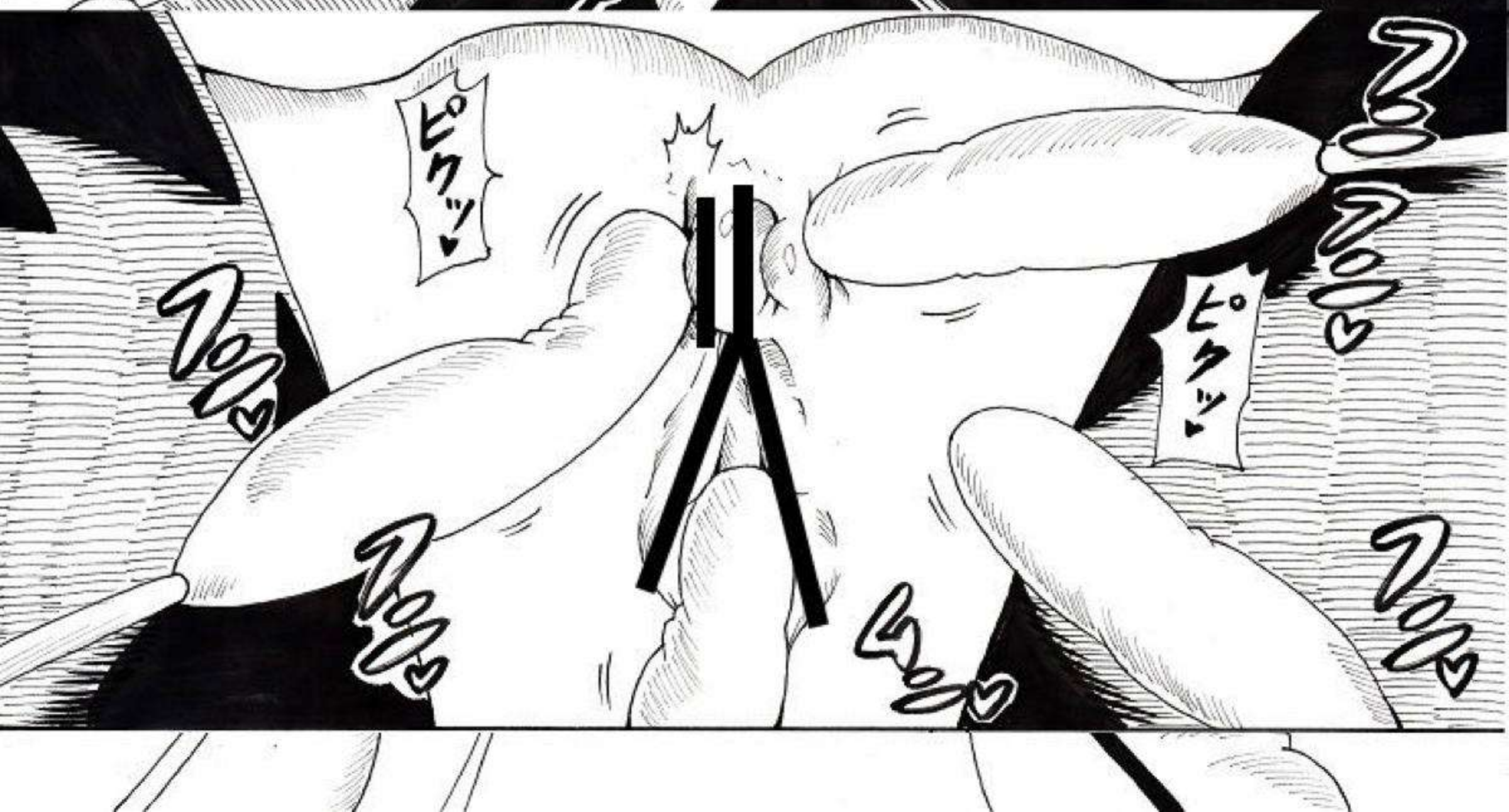
「あつ♡はん♡だめだめ♡
あははっ♡くすぐったくて
…それに気持ち良くて…
何…これ…凄いです♡」

ドキ

ドキ

「んっ♡…んんっ♡
んはっ♡…はあはあ♡
な、何でもありません
さあ、続けて下さい…♡」

(や、やだ…♡私…今
イっちゃった…♡
あーん♡もう、やだやだ♡
う…恥ずかしい…♡)



「もう皆……こんな遊び
どこで覚えたの？」

「皆が少しでも
癒されるなら
いいんだけどね♥」



ヤッ

ヤッ

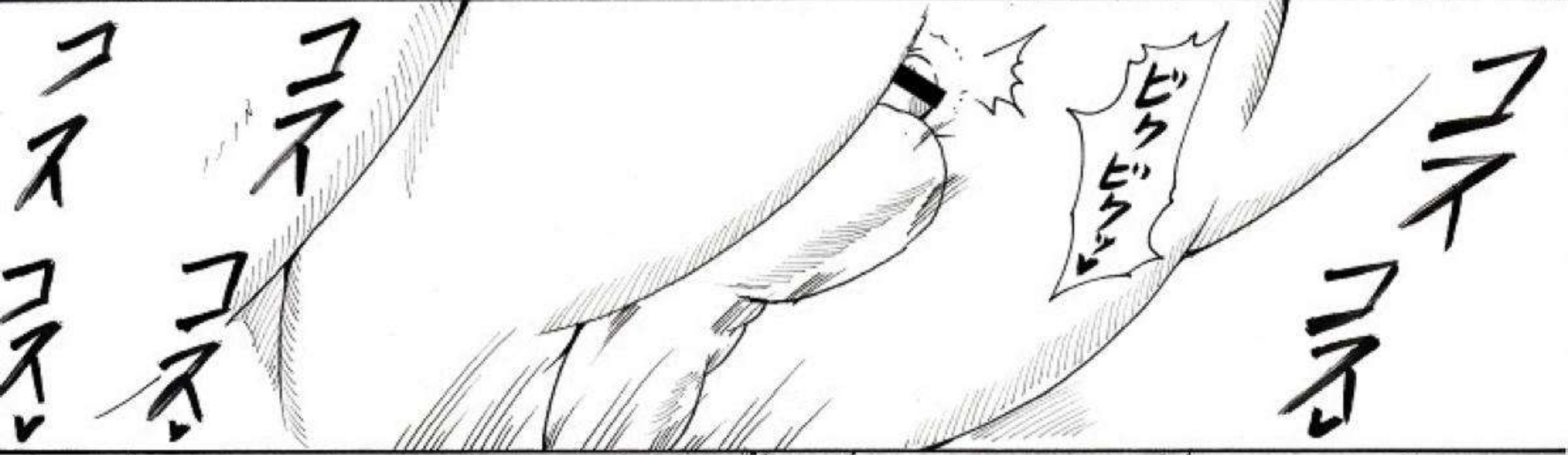
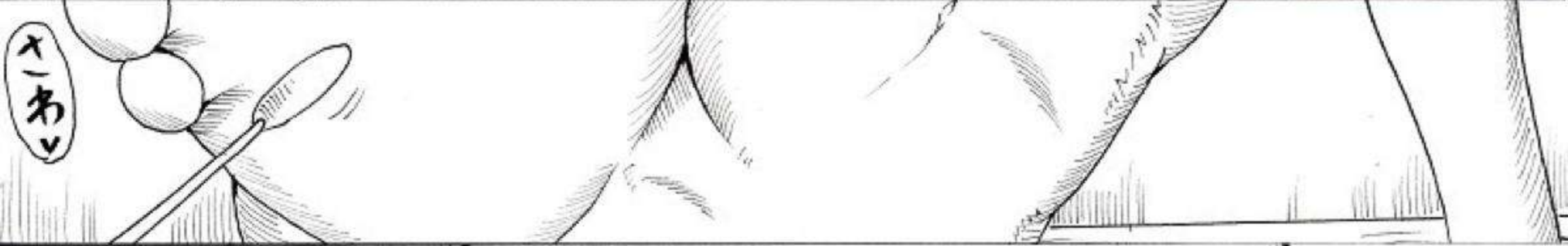
ヤッ

「ほら、弄りやすいように
脚広げてあげるから……♥」

「んっ♥やだあ♥
激しいよ……♥」

「あん♥気持ち良い……♥
メス猫のエツちな鳴き声
出ちやうよお……♥」

ドキン
ゴゴゴ



「さあ、いらっしやい……
あら？キスはお嫌い？」

ん〜

「大丈夫よ……心の準備が
出来たらでいいから……♥」

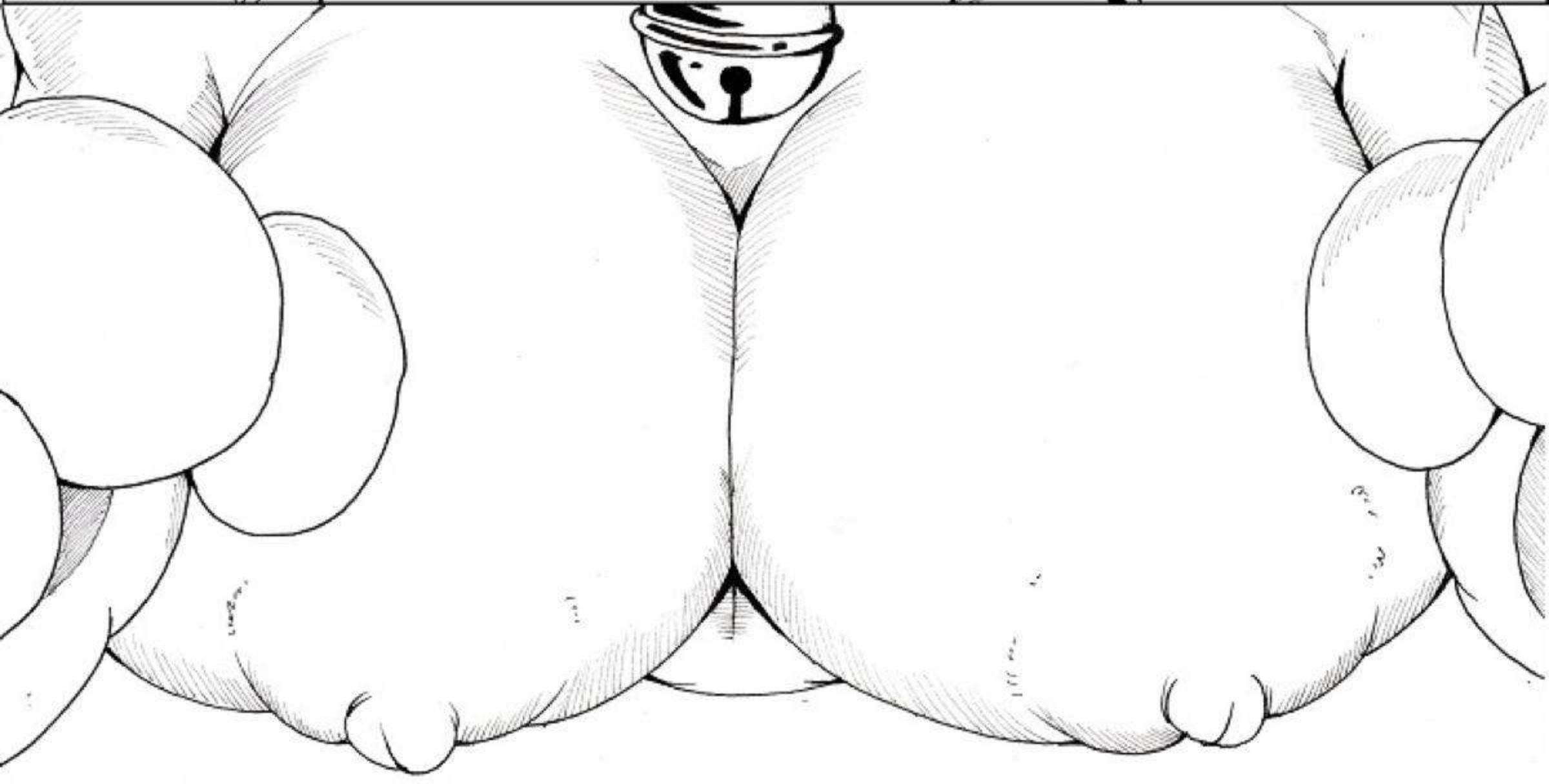
（……とは言ったものの
キス顔のまま待つのは
恥ずかしいわね……♥）



(私の唇の感触を
確かめるかの様
なキスだわ：：♡)

(それならこっちも
猫の甘噛みを披露
しちゃうんだから
：：：♡)

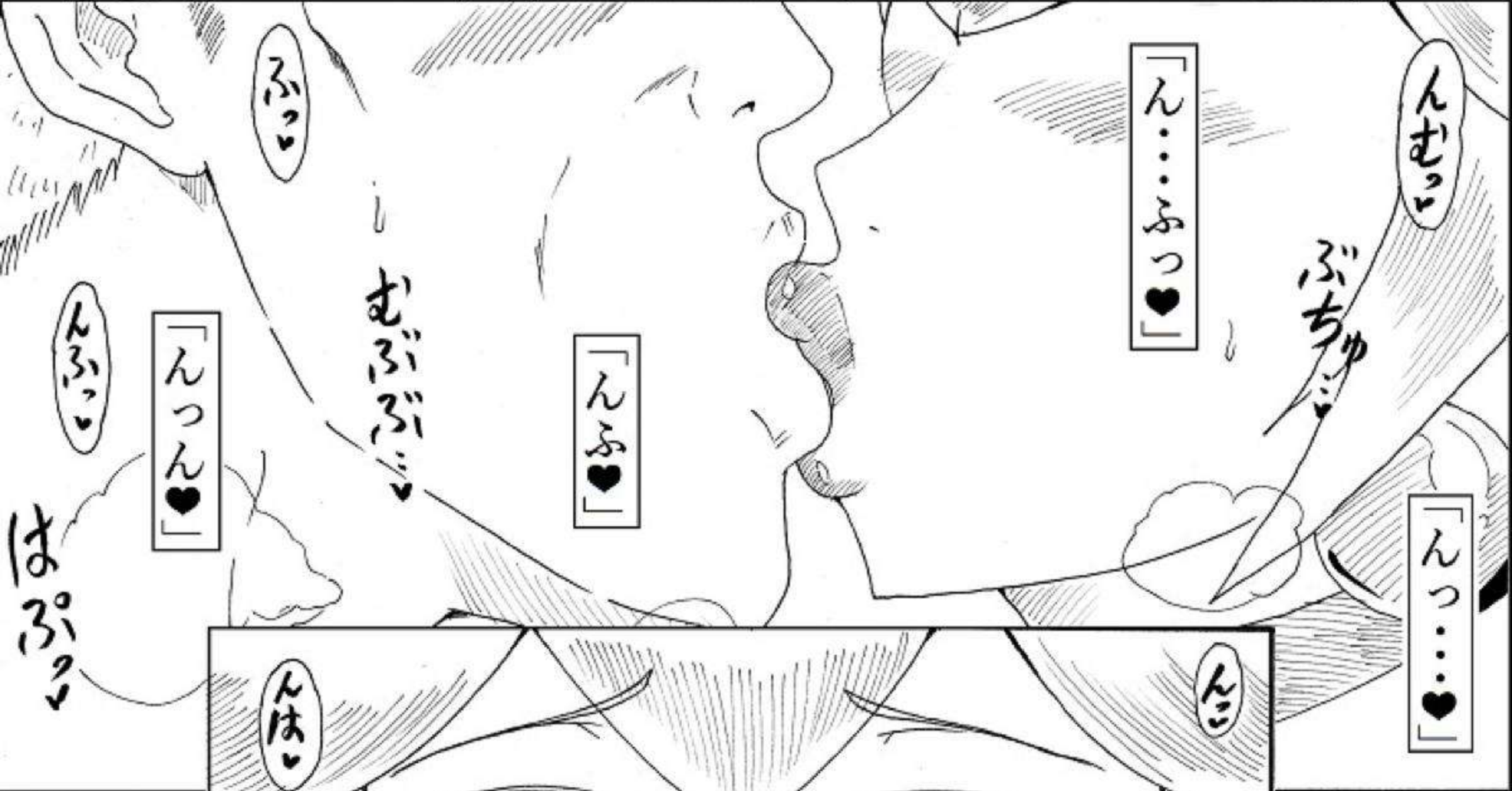
(：：んっ♡
はむはむ♡
あふっ♡
：：んふっ♡
は：：ふっ♡)



「さあ貴方も舌を出して……♡」

「大人のキス……しましょ♡」

（うふふ♡いいわ……そうよ♡
お互いの舌を絡ませて……♡）



んむっ♡

「ん……ふっ♡」

ぶちゅっ♡

「んっ……♡」

「んふ♡」

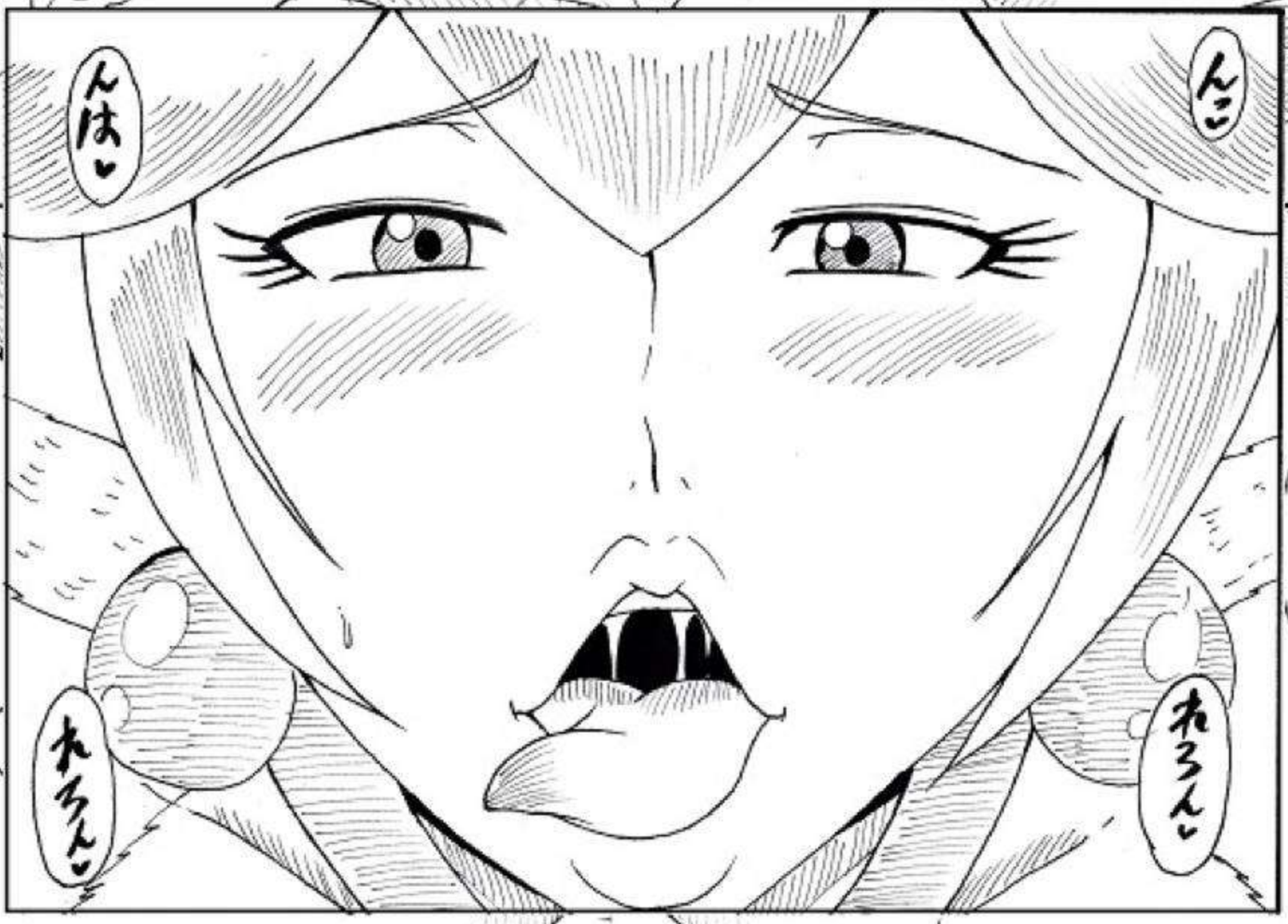
しむぶぶぶっ♡

「んっん♡」

ふっ♡

んふっ♡

はふっ♡



（そう……
そうよ……♡）

ねろん♡

ねろん♡

（二人でエッチなムードを作るのよ♡）

「それでは……
私達も……♥」

「あんまりレディを
待たせるんものじゃ
ないわよ……♥」

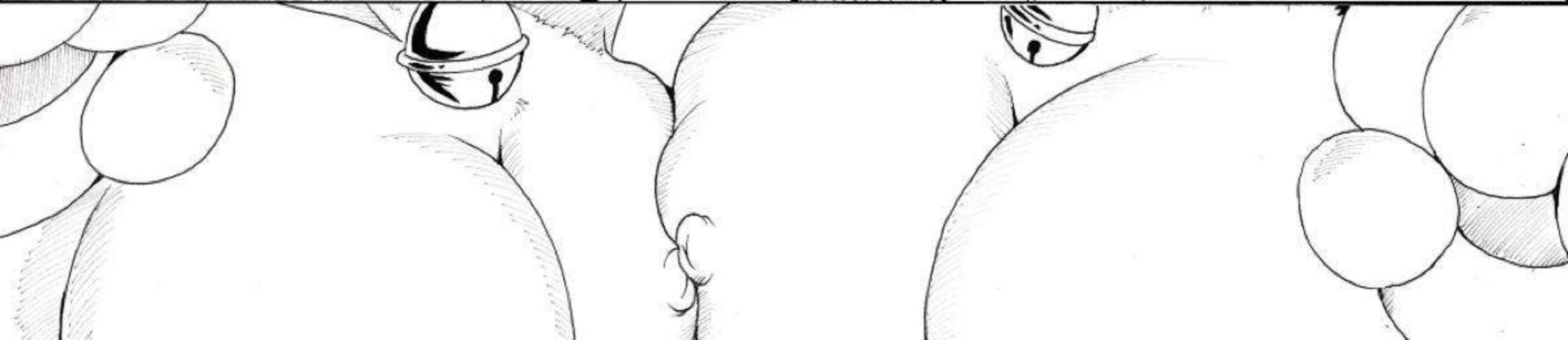


(唇ばかりキスして舐めて……♡)

(猫の唇を堪能してる……♡)

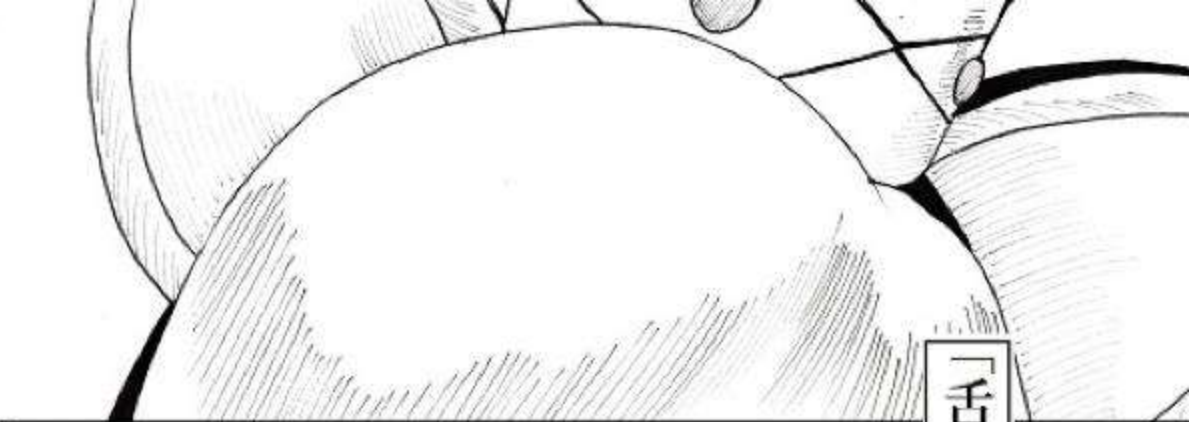
(ねちっこいキスをするじゃない……♡)

(じれったいわ……もつと……もつと激しくして……♡)

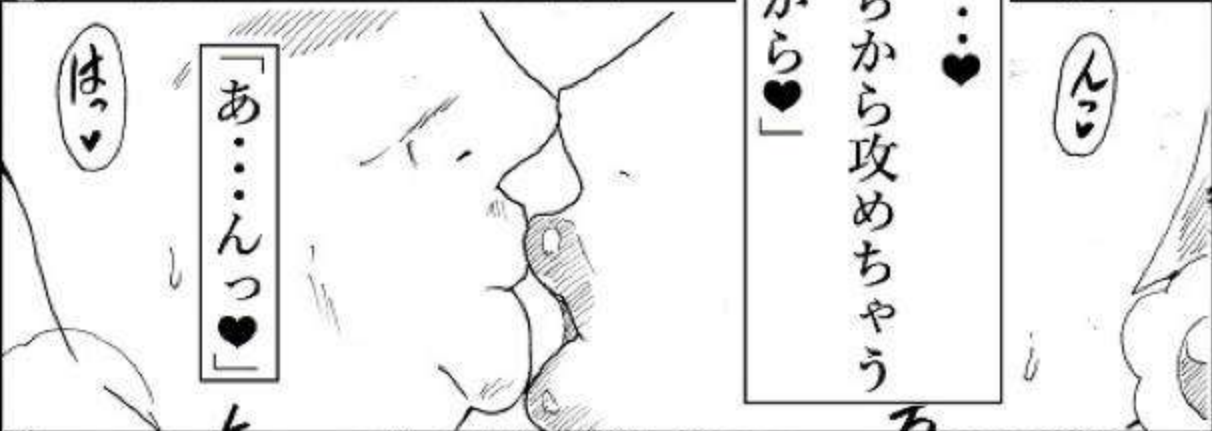




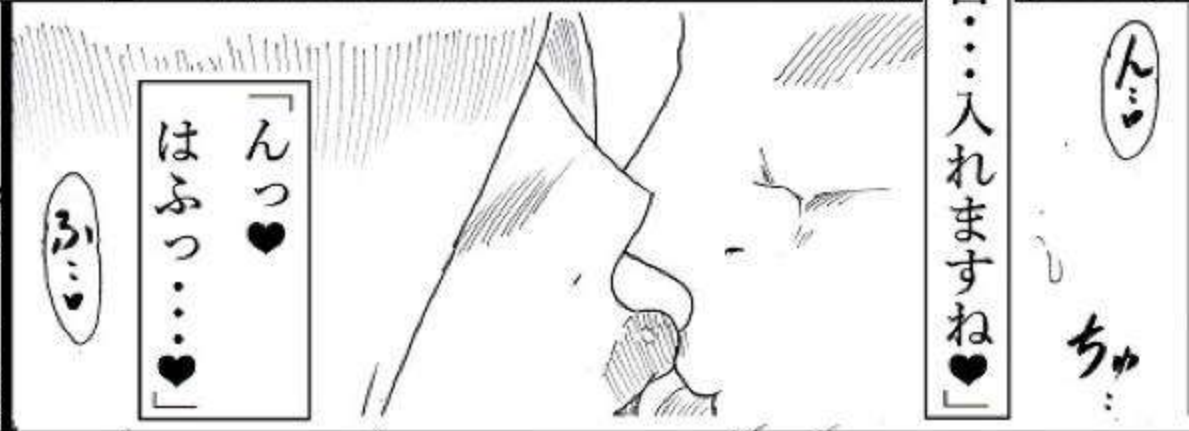
「もう……♡
こっちから攻めちゃう
んだから♡」



「舌……入れますね♡」



「あ……んっ♡」



「んっ♡
はふっ……♡」



おろっ♡



おろっ♡

「ん……♥皆見てて……
良いもの見せたげる♥
角オナニーよ……♥」

んっ

ビクッ

あっ

んん

こね
こね

(私……興奮しちゃってる……
おま●こ敏感になって……♥)

ビクッ

じりじり

フニフニ

ぐりぐり

「ああ……ダメ……
気持ち良い……♥
皆……見て……
角オナに夢中な
私を見てえ……♥」

「こんな…はしたない事…
皆様の前で…おま●こ
擦らせてオ…オナニー
するなんて…♥」



「興奮するわね…
姫としてどうかと
思うけど…見られ
てると凄く…
ドキドキしちゃう♥」

「乳首も弄りながら
クリトリスを擦る
あぁ…いい…♥」

「角に引っ掛ける様に
クリトリスを…
気持ち良いわ…♥」

「すいません、上から失礼します
脚で挟んでその……マッサージ
しますね……♡」

「……どうですか？
もう少しローションを
足しますね……♡」



「ほらほら♥
ふふ、どう？
気持ち良い？」

「脚でされるのも
悪くないでしょ？」



「今度は私達にマッサージを
したいだなんて……♡」

「皆様お上手で……♡
もっとお願いします♡」

「気に入ったわ……
コレ……♡」

「とても気持ち良い
んだもの♡」



「お待たせしました……
それではそろそろ……
こちらで気持ち良くな
りましょうか……♡」

ドキ

ドキ

「発情中のドスケベ
猫ま●こ……♡
試して頂けますか？」



びん

びん

びん

びん

びん

びん

「既に皆様、我慢の限界
みたいですね……♡」

「ほんと……犯す気満々の
オスの顔になってる……♡」

「……焦らないで♡
まずは準備が必要よ♡」



「3人のおっぱいに挟まれて
どんな感じかしら？」

「このままパイズリで
抜いてもいいんだけど…
そしたら本番が楽しめなく
なっちゃうよね♥」

「という事で、まずは
滑りを良くしますね♥」



「後の方々は少し待って
貰いますが……
本日は特別に3人で
お口でしますね……♡」

「気持ち良すぎて堪らず
射精……なんてダメだよ♡」
「これからもっと気持ち良い
事をするんですから……
辛抱なさって下さいね♡」

(そう……まだ
出したら
ダメよ……
発情して疼き
っぱなしの
メス猫お●こ
で気持ち良く
なって貰うん
だから……♡)



「好きなだけ♥
激しくツ♥
メス猫ま●こ
ズコバコして
頂戴ツ：♥」

「良い：♥良いわツ♥
激しいのが好きなのツ♥」



「キャッ
おまんこ
おまんこ」



「おまんこ」

「グッ」

「ああんツ♥出てる♥
イっっちゃったあ♥
メス猫ま●こで
どっぴゅんしちや
ったのね：♥」

「貴方の濃い全部出して♥
精液欲しがりメス猫ま●こ
にぴゅっぴゅしてえ♥」

「…素敵よ♥
今日の為にち●ほしごかず
いっぱい溜めて来たのね♥
一滴残らず出したさい♥
頑張っオナ禁して溜めた
濃厚ザーメンミルク全部
猫ま●こにぶっ放すのよ♥」



「すーっおい♡このち●ほ
凄く良いよお・・・♡」

「一心不乱に腰振って・・・
相当溜まってる様ですね♡」

「メス猫ま●こにズンズン
来てるう・・・♡」



「あッ♥私もイクッ♥
イツチャいますう♥
凄い射精量です♥
匂いも濃くて…
臭い…ですね♥
とてもイカ臭い
ザーメン…素敵♥」

「いやんッ♥イツチャったの？
私もお…イツクウウッ♥
メス猫ま●こも一緒に
イツチャうのおおッ♥」



「お待たせ：：♥
まだ発情メス猫3匹と
おま●こしてない人は
どうぞこちらへ：：♥」

「皆さんのザーメン：：
猫ま●こに下さい：：♥
こちらは準備万端です♥」

「さあ皆さん：：
ムチムチの猫ま●こは
こちらですよ：：♥」

「選んで：：♥
どの猫ま●こと
ハメハメしたいの？」



「皆で並んでお尻
突き出してえ……
写真も撮られて
エッチ過ぎい……」

「腕掴まれて……
コレ……ち●ほが
奥に当たるう♥
子宮にズンズン
響いてるよお♥」



「おっ♥おま●こ突かれて
ながら……お尻叩かれて
私……感じちやう……
こんな変態猫でごめん
なさいっ……♥」

「こんなに沢山…
マーキングされ
ちゃってるッ♥」

「皆のメス猫って
おま●ここに刻み
込まれてるう♥」



「見てえ：：♥こんなにしつかり
マーキングされちゃった：：♥
皆の専用メス猫の証しよ：：♥」

「リフレッシュしたくなったら
いつでも遊びに来て下さいね♥」



老わわわ

END♥













トキッ

クキッ

クキッ
クキッ

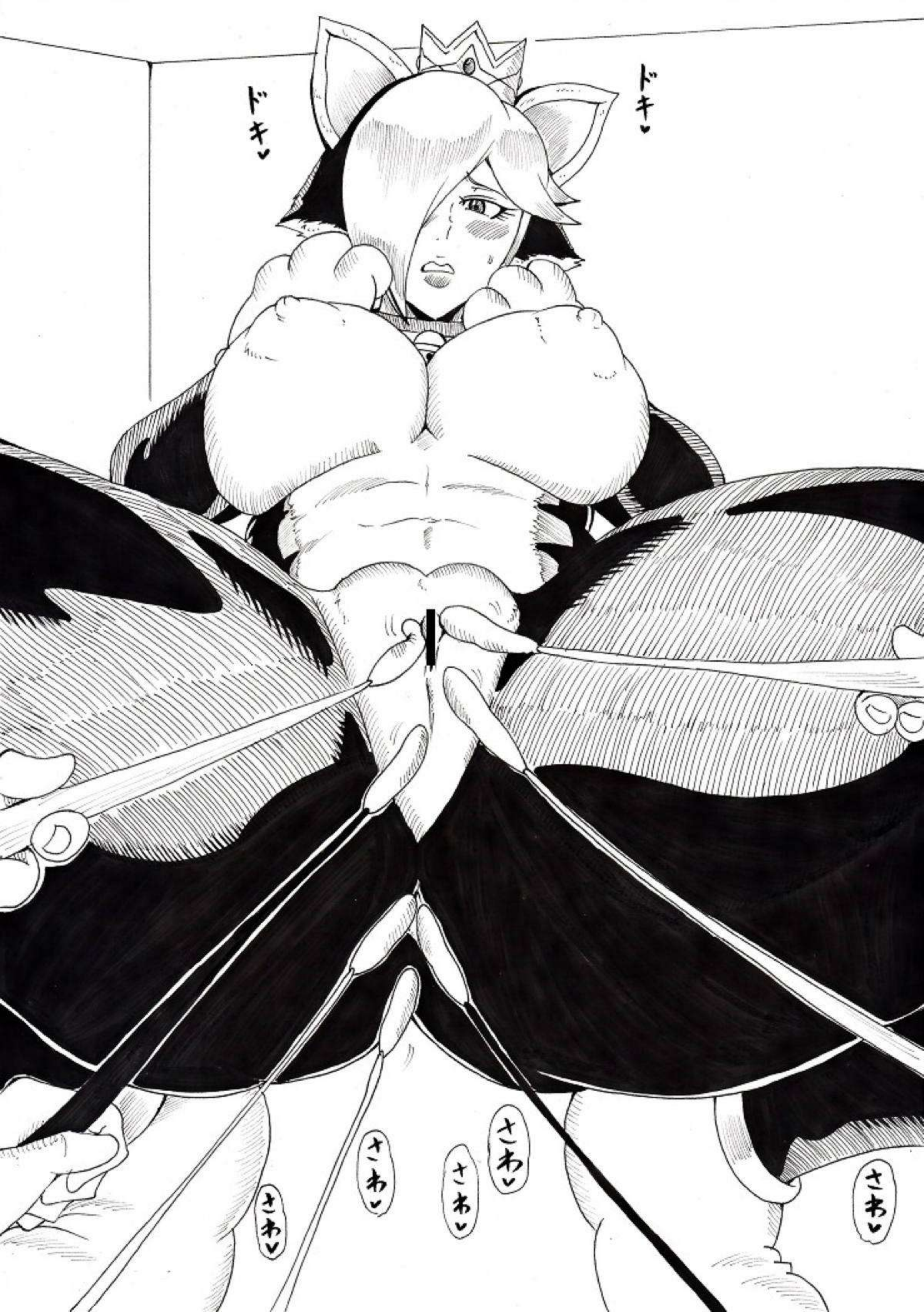
ムキッ

フンッ
フンッ

オカッ

オカッ

クキッ





ドキッ

んぎ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

ナッ

ナッ

ナッ







んんん

あー

びん

んんん

こね
こね

びん

びん

ぐりぐり

Milky





ドロドロ

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ







ギョウ

ギョウ

ギョウ

ギョウ

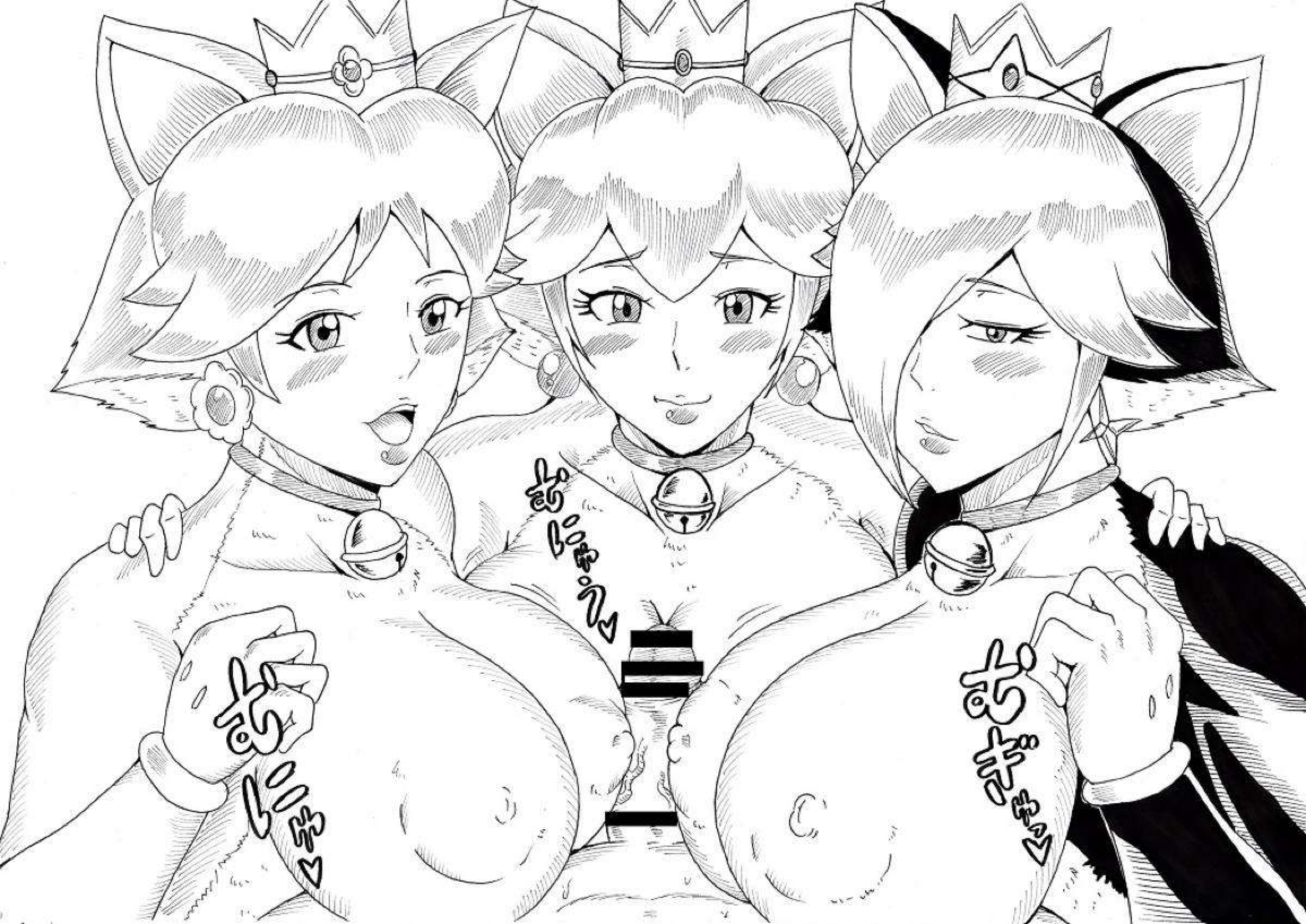
ギョウ

ギョウ

ギョウ

ギョウ









33

33

33

バクッ
バクッ
バクッ

バクッ
バクッ

バクッ
バクッ

びんぎょん

びんぎょん

びんぎょん

びんぎょん



ブッ

ブッ

ヒューン
グッ
グッ
グッ
グッ

ヒューン
グッ
グッ
グッ
グッ

ブッ

ブッ

グッ
グッ

グッ
グッ

グッ
グッ
グッ
グッ

グッ
グッ

グッ
グッ









にゃああ〜

んにゃい

んにゃい

にゃあおん〜

んにゃい

にゃあおん〜

にゃあおん〜

老わわわ

にゃあおん〜